

ジャンルレス工芸展

Genreless kōgei

2022年9月16日 [金] - 12月4日 [日]

ジャンルレス工芸展
Genreless kōgei

2022年
9月16日 [金] → **12月4日** [日]
September 16, 2022
— December 4, 2022

開館時間 | 午前9時30分～午後5時30分(入館は閉館の30分前まで)
休館日 | 月曜日(ただし9月19日、10月10日は開館)、9月20日、10月11日
主催 | 東京国立近代美術館
観覧料 | 一般 300円(250円) / 大学生 150円(70円)
開展期 | 10月16日(日) [いしかわ文化の日]、11月3日(木・祝) [文化の日]

「ジャンルレス工芸展」は、伝統工芸と現代美術の境界を曖昧にする、斬新な展覧会です。展示される作品は、素材や技法、形態、機能など、あらゆる観点から多岐にわたります。これらは、現代社会における工芸のあり方を問い、新たな可能性を示唆しています。

「Genreless kōgei」は、伝統工芸と現代美術の境界を曖昧にする、斬新な展覧会です。展示される作品は、素材や技法、形態、機能など、あらゆる観点から多岐にわたります。これらは、現代社会における工芸のあり方を問い、新たな可能性を示唆しています。

〒920-0963 石川県金沢市出羽町3-2 050-5541-8600 (ハローダイヤル)
Address | 3-2 Dewa-machi, Kanazawa-shi, Ishikawa 920-0963
Information Service | 050-5541-8600
<https://www.momat.go.jp/cg/>

開館時間：午前9時30分～午後5時30分 ※入館は閉館の30分前まで
休館日：月曜日（ただし9月19日、10月10日は開館）、9月20日、10月11日
会場：国立工芸館 〒920-0963 石川県金沢市出羽町3-2
観覧料：一般 300円（250円）／大学生 150円（70円）
＊（ ）内は20名以上の団体料金。および割引料金。＊いずれも消費税込。
＊オンラインによる事前予約もあり。
＊高校生以下および18歳未満、65歳以上、MOMATパスポート・学パスをお持ちの方、友の会・賛助会員の方、MOMAT支援サークルパートナー企業（同伴者1名まで、シルバーパートナーは本人のみ）、キャンパスメンバーズ、障害者手帳をお持ちの方と付添者（1名）は無料。
○割引対象：石川県立美術館・金沢21世紀美術館・石川県立歴史博物館・石川県立伝統産業工芸館（いしかわ生活工芸ミュージアム）・金沢市立中村記念美術館・金沢ふるさと偉人館の主催展覧会入場券半券、ならびにSAMURAIパスポート（一般のみ）を窓口で提示した方。
無料観覧日：10月16日（日） [いしかわ文化の日]、11月3日（木・祝） [文化の日]
主催：東京国立近代美術館
掲載用問い合わせ先：050-5541-8600（ハローダイヤル）

美術におけるジャンルは有効なのかー工芸の場合

工芸館所蔵作品を中心とした約100点で紹介

展覧会概要

近年、新しい文脈で工芸が評価されています。近代に入り西洋美術の概念が導入され、絵画や彫刻と異なるとみなされた表現が工芸と命名され分離されてから、その分野の作家たちは工芸について自問自答しながら新しい表現を目指して制作を続けてきました。並行して評論家も工芸の在り方について研究を重ねてきましたが、交通網やインターネットの普及により、これまでの美術や工芸の概念が揺らぎ始めています。実際、最近では美術や工芸といったジャンルにこだわらずに、工芸素材と技術を用いて自身の表現を追求するという姿勢の作家が増えてきました。そして時を同じくして、専門外の評論家が注目し紹介することで、工芸作品の露出が高まってきました。

本展は、東京国立近代美術館が所蔵する国内外の優れた工芸・デザイン作品を中心に、あえて工芸と括らずに新しい視点でご紹介する展覧会です。器からオブジェまで形状はさまざまですが、鑑賞者はジャンルを気にすることなく、工芸素材とそれを活かす卓越した技術を用いた幅広い表現に触れることができるでしょう。

展覧会のポイント

- ▶ デザイン、現代アート、工芸といったジャンルを超えた作品を紹介。
先入観をなくして作品と対峙することで、思いがけない一面に出会えるかもしれません。
- ▶ 素材に対する深い理解のもと卓越した技術で、
大正から令和にかけて制作された当館所蔵の名品による展示構成。
- ▶ 現代アートの分野でも評価の高い青木千絵、池田晃将、見附正康、牟田陽日など
10名の作家の新作や近作も展示。

展示構成

デザイン



平松保城
《スカルプチャー・ウエイト》
1973年
東京国立近代美術館蔵

デザイナーの仕事は視覚領域や空間などの意匠計画や図案などを設計することですが、その発想力をもとにアート作品を制作することもあります。例えばジュエリーデザインを多く手がけた平松保城の《スカルプチャー・ウエイト》はロジウムメッキ独特の硬い質感を生かしながら計算された緻密な作品で、洒落たデザインのウエイトとしても使用可能な、手のひらサイズの愛らしい作品です。

現代アート

漆彫刻家・青木千絵の乾漆作品は、何度も漆を塗り磨くという工程を繰り返すことで、黒漆の美しさを極限まで引き出し、なまめかしく艶をもった人体となっています。この漆は女性の皮膚を想起させる一方、内へ引きこまれそうな魔力も持っています。青木は潜在意識と対峙することを制作の根底に置いています。漆という素材への深い理解がなければ、この艶を出すことはできないのです。



青木千絵《BODY19-1 孤独の身体》
2019年

イベント

展覧会関連イベント

【トークイベント】要予約（定員40名）

①「工芸ってなに？」

登壇者：青木千絵氏（漆彫刻家）、牟田陽日氏（陶芸家）

聞き手：岩井美恵子

（国立工芸館工芸課長、本展企画者）

主催：国立工芸館

日時：9月17日（土） 午後1時30分～午後3時

会場：国立工芸館多目的室

②「工芸作品を作ること」

登壇者：池田晃将氏（漆芸家）、見附正康氏（陶芸家）

聞き手：岩井美恵子

主催：兼六園周辺文化の森等活性化推進実行委員会

日時：11月5日（土） 午後1時30分～午後3時

会場：国立工芸館多目的室

開館記念日特別公開

「ガラスの向こうの気になる「アレ」」

国立工芸館の開館記念日、10月25日に
エントランス正面の中庭（通常は立ち入り
禁止）を開放します。金子潤の作品を間近
で鑑賞しませんか。記念撮影もOK！

日時：10月25日（火）

午前9時30分～午後5時30分

場所：中庭（エントランス正面）

*雨天中止

*事前申込不要

*いずれも参加無料

*トークイベントの申込方法はホームページをご確認ください。

*国内外の状況により記載内容に変更が生じる場合があります。

記者発表会・内見会

一般公開に先駆けて報道関係の皆さまのみの発表会、および内見会を行います。

9月15日（木） 午前11時30分～午後1時（受付開始 午前11時30分）

参加ご希望の方は、申込書に必要事項をご記入の上、メールまたはFAXでご連絡ください。

次回展予告

2022年12月20日（火）～2023年2月26日（日）

工芸館と旅する世界展－外国の工芸とデザインを中心に

国立工芸館では、日本国内の工芸作品だけでなく、世界各国の工芸家やデザイナーの作品も収集してきました。本展では、これまでまとめて展示する機会の少なかった海外作家による作品を中心に紹介します。なかなか自由に活動することが難しい今、作品を通して、工芸とデザインをめぐる世界旅行に出かけてみませんか？



ルース・ダックワース 《無題 No.706201》
2001年 東京国立近代美術館蔵
撮影：エス・アンド・ティ フォト ©2018



国立工芸館

National Crafts Museum

〒920-0963 石川県金沢市出羽町3-2

<https://www.momat.go.jp/cg/>

アクセス：

バスにて

JR金沢駅兼六園口（東口）より

【北鉄バス】

3番乗り場：18系統に乗車、「広坂・21世紀美術館(石浦神社前)」下車徒歩7分

7番乗り場：どの系統でも乗車可、

「広坂・21世紀美術館(しいのき迎賓館前)」下車徒歩9分

6番乗り場：乗車(「柳橋」行を除く)、「出羽町」下車徒歩5分

車にて

北陸自動車道金沢西ICまたは金沢森本ICから20～30分。

近隣に文化施設共用駐車場（無料）があります。



報道関係の方のお問い合わせ先

国立工芸館

展覧会担当／岩井

広報担当／藤田・小島・笹出

Tel：076-221-1955（広報直通）

E-mail：koge-pr@momat.go.jp

広報用画像一覧



図版No.1 展覧会ポスター



図版No.2
三島喜美代《Work-86-B》1986-87年
東京国立近代美術館蔵
撮影：エス・アンド・ティ フォト ©2019



図版No.3
三輪龍氣生(龍作、十二代休雪)
《愛の為に》1968年
東京国立近代美術館蔵
撮影：アローアートワークス ©2015



図版No.4
青木千絵《BODY19-1 孤独の身体》
2019年
提供：舩居



図版No.5
見附正康《無題》2019年
©Masayasu Mitsuke; Courtesy of Ota Fine Arts



図版No.6
笹井史恵《かさね 8》2015年
東京国立近代美術館蔵
撮影：齋城卓 ©2017



図版No.7
永井一正《Life to Share》1994年
東京国立近代美術館蔵



図版No.8-10
稲垣稔次郎《木綿地型絵染壁掛 虎》1960年 東京国立近代美術館蔵



図版No.11
吉田良《すぐり》1986年
東京国立近代美術館蔵
撮影：齋城卓 ©2003



図版No.12
平松保城
《スカルプチャー・ウエイト》1973年
東京国立近代美術館蔵



図版No.13
関島寿子《無題 かご (No.401)》
1994年 東京国立近代美術館蔵
撮影：エス・アンド・ティ フォト
©2019



図版No.14
畠山耕治《八つの面》2010年
東京国立近代美術館蔵
撮影：アローアートワークス ©2011

上記画像No.1~14を広報用にご提供いたします。
ご希望の方は当館ホームページの画像提供
システムよりお申し込みください。



<https://www.momat.go.jp/cg/ncm-photo/>

*展覧会をご紹介いただける場合は、読者プレ
ゼント用招待券(5組10枚)をご用意してお
ります。ご希望の方は画像申請の際に「その他」
欄よりお知らせください。